

CASBEE®北九州

評価結果

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	産業医科大学病院南別館新築工事	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★☆
------	-----------------	-----	-----	--------	---	------

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価	
1 循環型社会への貢献	3.8 /5		ふつう	
2 地球温暖化対策の推進	3.6 /5		ふつう	
3 豊かな自然環境の確保	3.0 /5		ふつう	
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう	
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2014年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.8
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.4 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 4.5 Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 3.6
外装の大部分を吹付塗材の採用、内部間仕切りを乾式とすることで更新時に容易に取り外し可能	躯体材料は等級3相当を使用し、長寿命化に配慮 長寿命配管材料の採用
地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.6
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.2 LR2/ 1.1 節水 スコア 4 高効率空調機器の採用
	手洗いは自動水栓、節水型便器、擬音装置付き洗浄便座
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 3.0
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 3 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 3 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 3
<自由記述>	<自由記述>
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.74
<自由記述>	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEI値、住宅: - 0.93 外構緑化指数 5.62 % 建物緑化指数 %



: 入力欄

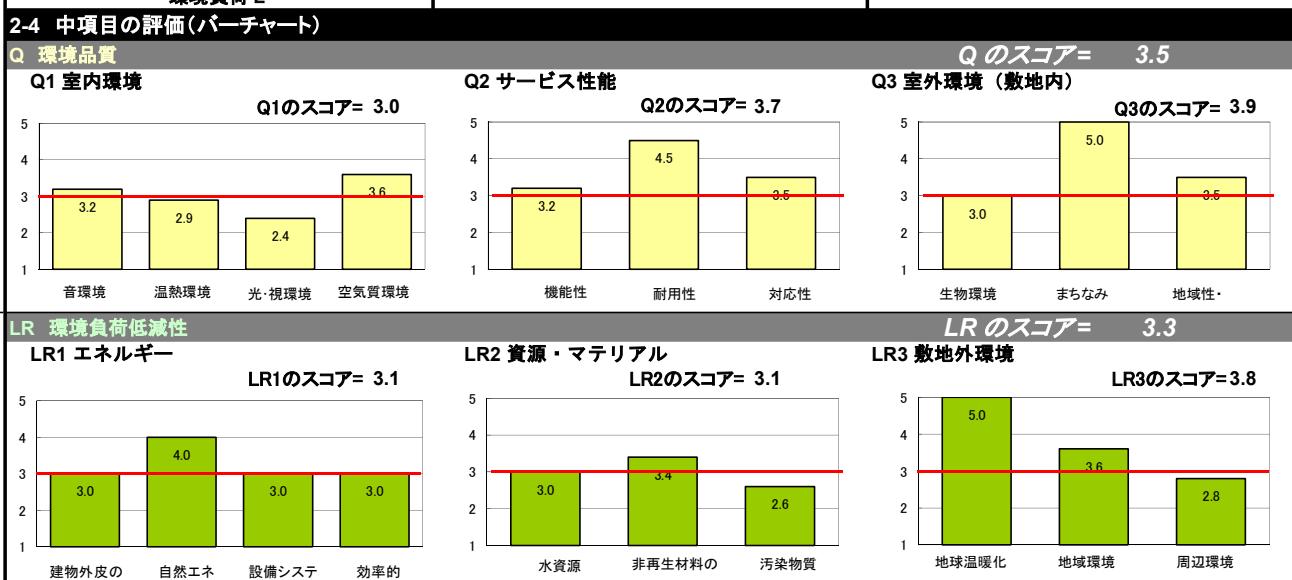
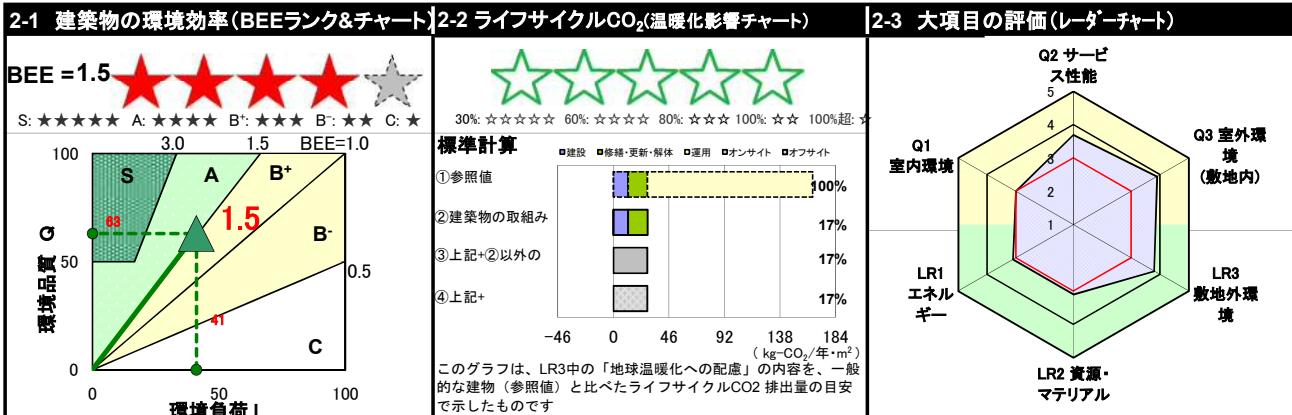


: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	産業医科大学病院南別館新築工事	階数	地上4F、地下1F
建設地	福岡県北九州市	構造	RC造
用途地域	市街化区域、第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	373 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2017年9月20日
敷地面積	345,059 m ²	作成者	藤 致滋
建築面積	1,505 m ²	確認日	2017年9月22日
延床面積	6,567 m ²	確認者	藤 致滋



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> 最先端医療をささえ、既存病院本館と将来病棟へのシームレスな連携を重視した計画 将来への変化に対応しやすい施設設計 省エネに配慮した計画 		<ul style="list-style-type: none"> 特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> 適正な外皮性能（複層ガラスを採用したサッシ、日除けルーバー）により空調負荷を軽減 	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー計画により機能性・使いやすさに配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内や建物周りに植栽を設けることで室外環境に配慮
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> 適正な外皮性能（複層ガラスを採用したサッシ、日除けルーバー）により空調負荷を軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 有害物質を含まない材料を用いる等の配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 騒音・振動等について周辺環境に配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフケーブルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフケーブルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 産業医科大学病院南別館新築工事		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)				
スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						
Q1 室内環境						
1 音環境						
1.1 騒音						
1.2 遮音						
1 開口部遮音性能	T-2以上で計画	3.3	0.15	3.1	1.00	3.2
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.40	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.8	0.40	3.4	0.40	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		5.0	0.40	5.0	0.30	
		3.0	0.60	3.0	0.30	
		3.0	-	3.0	0.20	
		3.0	-	2.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20	
2 溫熱環境						
2.1 室温制御		2.9	0.35	2.8	1.00	2.9
1 室温		3.3	0.50	3.0	0.50	
2 外皮性能		3.0	0.38	3.0	0.57	
3 ゾーン別制御性	ゾーン別の系統分け、冷暖同時エアコンの設置	3.0	0.25	3.0	0.43	
2.2 湿度制御		4.0	0.38	xxxxxx	-	
2.3 空調方式		2.0	0.20	2.0	0.20	
3 光・視環境						
3.1 昼光利用		2.3	0.25	2.9	1.00	2.4
1 昼光率		1.8	0.30	1.8	0.30	
2 方位別開口		1.0	0.60	1.0	0.60	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策	庇により制御	2.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	カーテン、庇の2種類以上の組合せにより制御	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境						
4.1 発生源対策		3.7	0.25	3.5	1.00	3.6
1 化学汚染物質		3.0	0.50	3.0	0.63	
4.2 換気		3.0	1.00	3.0	1.00	
1 換気量	建物全体(外来待合・診療室)は30m ³ /h人、住居(病室)は35m ³ /h人	4.0	0.30	4.3	0.38	
2 自然換気性能		4.0	0.50	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	空気取入れ口は汚染源のない方位で、排気口と6m以上離している	3.0	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理		5.0	0.20	5.0	0.33	
1 CO ₂ の監視		5.0	-	-	-	
2 嗅煙の制御	病院内(建物全体)すべて禁煙	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能						
1 機能性						
1.1 機能性・使いやすさ		-	0.30	-	-	3.7
1 広さ・収納性	病室個室は10m ² /床以上かつ4床室は8m ² /床以上	3.0	0.40	4.4	1.00	3.2
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	5.0	1.00	
3 パリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観	病室部分は天井高さ2.5m以上(2.515m)	3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 看護 寄宿舎		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性						
2.1 耐震・免震		4.5	0.30	-	-	4.5
1 耐震性	建築基準法に定められた50%増しの耐震性	4.6	0.50	-	-	
2 免震・制振性能		5.0	0.80	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
1 転体材料の耐用年数	等級3相当	4.5	0.30	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	30年以上	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	20年以上	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	高湿系ダクト(浴室等)にステンレスダクトを使用	4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用しない場合は不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1 空調・換気設備	評価する取組みが3つ以上	4.4	0.20	-	-
	2 給排水・衛生設備		5.0	0.20	-	-
	3 電気設備	評価する取組みが4つ以上	3.0	0.20	-	-
	4 機械・配管支持方法	耐震クラスA、設計用水平震度KH1.5以上	5.0	0.20	-	-
	5 通信・情報設備	評価する取組みが4つ以上	4.0	0.20	-	-
			5.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.6	0.30	3.2	1.00
	3.1 空間のゆとり	高さ3.9m以上(4.3m)	3.4	0.30	3.4	0.50
	1 階高のゆとり		5.0	0.60	5.0	0.60
	2 空間の形状・自由さ		1.0	0.40	1.0	0.40
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	0.50
	3.3 設備の更新性		4.2	0.40	-	-
Q3 室外環境(敷地内)	1 空調配管の更新性	ゆとりを持った階高により天井スペースが確保され更新・修繕が可能	4.0	0.20	-	-
	2 給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく、更新・修繕が可能	4.0	0.20	-	-
	3 電気配線の更新性	構造部材・仕上げ材を痛めることなく、更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-
	4 通信配線の更新性	構造部材・仕上げ材を痛めることなく、更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-
	5 設備機器の更新性	主要設備機器の更新・修繕時に機能を維持	5.0	0.20	-	-
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	0.30	-	-
	LR1 エネルギー		-	0.40	-	-
	1 建物外皮の熱負荷抑制		3.0	0.20	-	3.0
	2 自然エネルギー利用	4階にトップライトを採用	4.0	0.10	-	4.0
	3 設備システムの高効率化	BEI 非住宅 0.93 住宅(専有部) 0.83	3.0	0.50	-	3.0
	集合住宅以外の評価(3a,3b)		3.0	1.00	-	-
4 効率的運用	集合住宅の評価		3.0	0.50	-	-
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-
	集合住宅の評価		3.0	0.20	-	3.0
	4.1 モニタリング		3.0	1.00	-	-
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
	1 水資源保護		3.0	0.20	-	3.0
	1.1 節水		3.0	0.40	-	-
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-
	2 雜排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	3.4
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.11	-	-
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	グリーン購入法における「特定調達品目」(ビニル床材)	3.0	0.22	-	-
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	評価する取組みが2つ以上	5.0	0.22	-	-
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		2.6	0.20	-	2.6
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.30	-	-
	1 消火剤		2.5	0.70	-	-
	2 発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-
	3 冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
	1 地球温暖化への配慮	LCCO2排出率が参考値に対して50%以下	5.0	0.33	-	5.0
	2 地域環境への配慮		3.6	0.33	-	-
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.6	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮	1 雨水排水負荷低減		-	-	-	-
	2 污水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
	3 交通負荷抑制		5.0	0.33	-	-
	4 廃棄物処理負荷抑制	評価する取組みが4つ以上	3.0	0.33	-	-
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		2.8	0.33	-	2.8
	1 騒音		3.0	0.40	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	2 振動		3.0	0.50	-	-
	3 悪臭		3.0	0.50	-	-
	1 風害の抑制		3.0	0.40	-	-
	2 砂塵の抑制		3.0	0.70	-	-
	3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
	3.3 光害の抑制		2.3	0.20	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-
	2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-